

韓国ハンリム大学 ホームステイ事業について

鳥取県南部町企画政策課

1 はじめに

今年で16年続く南部町のハンリム大学ホームステイ事業を実施しているのは南部町国際交流協会です。同協会は平成6年に設立され、現在の会員数は、個人会員100名、法人会員3団体。町民の国際理解を深め、国際的視野を持った人材の育成を目指して、ハンリム大学のホームステイ事業をはじめ、外国語スピーチコンテスト、韓国への交流の旅など国際交流事業に積極的に取り組んでいます。

2 ハンリム大学ホームステイ事業の概要

ハンリム大学のホームステイ事業は、毎年7月に10日間の日程で、ハンリム大学から約10人の学生を招いて行われます。

同大学では南部町に行きたいという希望者が多く、毎年選抜試験を実施し参加者を決定しています。

ホームステイ期間中のプログラムは、学校や保育園、集落の高齢者が集う「いきいきサロン」などでの町民との交流、茶道や陶芸などの日本文化

の体験、鳥取グリコなど町内企業の訪問など幅広く多様です。研修プログラムを提供する交流協会も学生たちも10日間で南部町のあらゆることを学んで欲しい、学びたいという気持ちがこの研修プログラムに現れています。

そして何よりも学生たちにとって一番の勉強になり、印象に残るのが、ホストファミリーとの10日間の生活でしょう。昨日まで全く見ず知らずの、異国で暮らしていた学生が家族の一員となって「お父さん」、「お母さん」、「〇〇ちゃん」と呼び合い生活をともにするのです。お別れの日には、双方が泣きます。

3 ホームステイ事業のはじまり

ハンリム大学のホームステイ事業のきっかけを作ったのは平成7年、旧西伯町が韓国から国際交流員として招いた許敬七（ホ・キョンチル）さんでした。

町ではかねてから、本町から一番近い韓国について町民の理解を深めたいと考えており、同国からの交流員を招致したことをきっかけに、国際交



町内の小学校で子どもたちに韓国のことを教える学生たち。興味津々の子どもたちからはさまざまな質問が。



毎年の定番、町内の窯元での陶芸体験。作品は後日焼き上げて韓国へ送られます。

流協会が同年7月に許さんの出身地である江原道への訪問団を結成し、韓国を訪問しました。

この訪問の際、日本の文化、歴史等を専攻する日本学科を設置するハンリム大学を訪問し、同大学の先生、学生と交流するなかで日本の文化、日常生活などを肌で感じたいとの希望があり、ホームステイ事業がまとまりました。もちろん、同学科の学生たちが日本語を話せるということもホームステイ事業を実施するうえで大きなポイントでした。

第1回のホームステイ事業では、ハンリム大学日本学科教授1名、学生24名が来日し、平成8年2月5日から14日までの10日間本町に滞在しました。

また同年7月には第2回目を実施し、以降毎年7月にホームステイを行うことが恒例となりました。平成15年にはSARS流行により一度だけ中止しましたが、今日まで16年間の長きにわたりこの事業を実施してきました。

平成17年には竹島問題から鳥取県と江原道の行政交流中断などの公的な日韓交流が中止されるなか、民間レベルでの交流を維持しようという本町町民とハンリム大学の皆さんの想いにより、このホームステイが継続されてきました。

ホームステイ事業をはじめて何年かは、ホストファミリーを確保するのが一苦勞の時代もありました。これは、町民の多くが今ほど韓国についての知識がなく、どんな食事を提供して、どのように接してよいか不安であったためです。

韓国のドラマや歌、ファッション、料理、文化などが日常的にテレビに流れる今日とは隔世の感があります。

4 今後も継続します

これまで南部町を訪れた多くの学生が社会人として活躍しており、なかには韓国の国際交流員として鳥取県を希望し赴任している人がいたり、日本企業に就職し活躍している人もいます。

また、韓国に帰った後も、ホストファミリーの皆さんを「おとうさん、おかあさん」と親しく呼び、双方が日本、韓国を互いに行き来しながら交流を続けている例もたくさんあります。



標高1,729mの名峰大山山頂にて。交流協会会員やホストファミリーとの大山登山も毎回恒例

このような状況を見ますと、ホームステイ事業を通じて本町の国際理解がずいぶん進んだということを実感します。

本年（平成23年）も、7月8日から17日までの10日間、第17回のホームステイ事業を実施しました。残念ながら今年は、福島原発の風評被害のため、参加者が激減し、参加者は3名となりました。このような状況のなかで来町した3人は、町民から今までにも増しての大歓迎を受けました。

南部町と町国際交流協会では、これまで16年間培ってきた草の根交流を今後とも継続し、日韓のきずなと町民の国際理解をさらに充実したものにしたいと考えています。

〔ホームステイの実績について〕

回	開催年	日程	参加者数
第1回	平成8年	2月5日～14日（10日間）	23名
第2回	平成8年	7月8日～17日（10日間）	11名
第3回	平成9年	7月9日～18日（10日間）	10名
第4回	平成10年	7月8日～17日（10日間）	10名
第5回	平成11年	7月14日～23日（10日間）	11名
第6回	平成12年	7月12日～22日（11日間）	10名
第7回	平成13年	7月11日～22日（12日間）	10名
第8回	平成14年	7月15日～25日（11日間）	10名
第9回	平成15年	SARS(新型肺炎)流行のため中止	
第10回	平成16年	7月15日～24日（10日間）	10名
第11回	平成17年	7月12日～22日（10日間）	10名
第12回	平成18年	7月11日～21日（10日間）	10名
第13回	平成19年	7月10日～20日（10日間）	10名
第14回	平成20年	7月8日～15日（8日間）	10名
第15回	平成21年	7月8日～15日（8日間）	10名
第16回	平成22年	7月13日～20日（8日間）	9名
第17回	平成23年	7月8日～17日（10日間）	3名